

取扱説明書

流量測定用絞り機構
形式：FVA

INF-TN3FVAb

富士電機株式会社
本社　〒141-0032　東京都品川区大崎一丁目11番2号
（ゲートシティ大崎イーストタワー）
http://www.fujielectric.co.jp
計測機器技術相談窓口
TEL （042）584-1506　　FAX（042）584-1513
受付時間　AM9：00〜12：00　PM1：00〜5：00
［月〜金曜日（祝日を除く）、FAXでの受信は常時行っています］
計測機器のホームページ
http://www.fujielectric.co.jp/products/instruments/

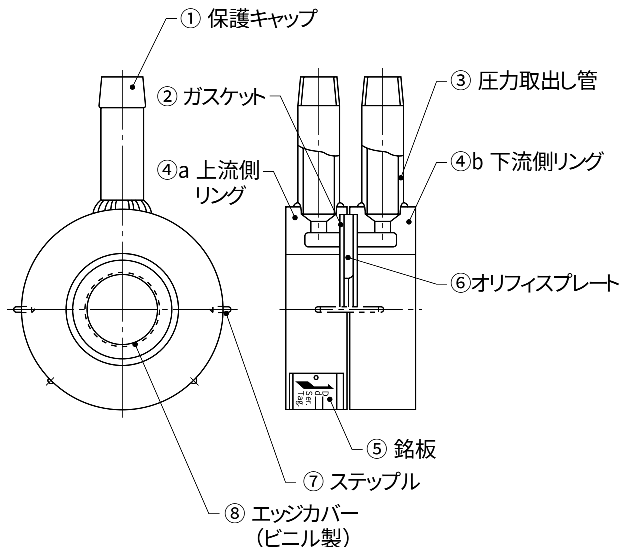


図1 各部の名称

1. 差圧取出し管の開き角度の選定

絞り機構は，発送の際には２つの圧力取出し管（図１ー③）を同じ向きに揃えて固定し，ポリエチレン袋をかぶせて出荷しております。

圧力取出し管接続口がフランジタイプの場合は，１８０°で固定してあります。

また，口径３５０Ａ以上の場合はステップル（図１ー⑦）で固定しないで出荷いたします。

この２つの圧力取出し管（高圧側および低圧側）は，配管の状況，流体の種類などによって，図２〜４のように開いて据え付けます。右記を参照して，左右対称の開き角度を選定してください。 ▇ の部分が使用可能な範囲です。

1.1　水平配管に据え付けるとき

（1）流体が“ 液体 ”の場合

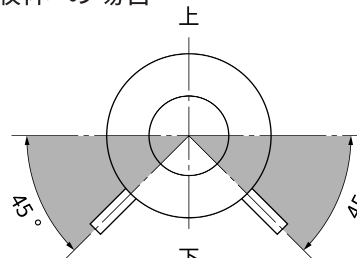


図2

（2）流体が“ 気体 ”の場合

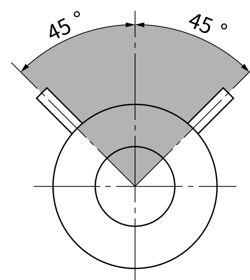


図3

（3）流体が“ 蒸気 ”の場合

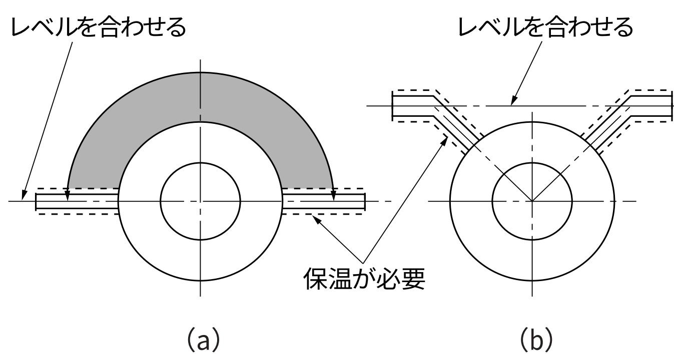
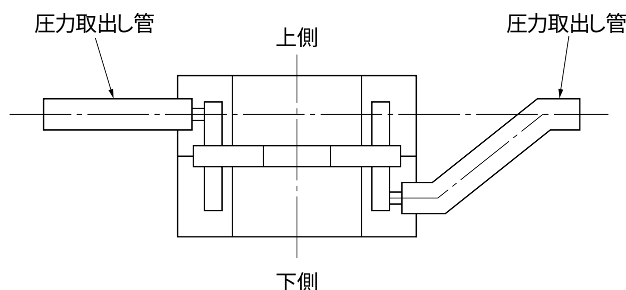


図4

1.2　垂直配管に据え付けるとき

流体，流れの向きに関係なく下図のように据え付けてください。圧力取出し管の開き角度は自由です。



2. 据付け準備

（a）絞り機構を包装してあるポリエチレン袋を解き，絞り機構を取り出してください。ただし，圧力取出し管にかぶせてある保護キャップ(図１－①)は据付けが終わるまで取り外さないでください。

（b）オリフィスプレートに付けてあるビニル製のエッジカバー(図１－⑧)を取り除いてください。

（c）絞り機構を取り付けるための配管フランジ用ボルト，ナット，ガスケットを事前に準備してください。
材質，種類および数量は，流体，フランジの種類および温度・圧力条件に対応した適切なものをご使用ください。

3. 据付け

3.1 流通方向の確認

上流側のリング(図１－④ａ)の外周には，銘板(図１－⑤)が取り付けてあります。この銘板には図５のように流通方向を示す矢印が記してあります。

流体の流れ方向と，絞り機構の向き(銘板の矢印)とが一致するように合わせてください。

3.2 据付け要領と注意事項

(1) 水平配管

配管フランジ下側にボルトを取り付けておきガスケットと共に絞り機構を挿入します。
リングが回転出来る程度までナットをかるく絞め込んでください。
次にステップルを引き抜き圧力取出し管を適切な位置まで回転させてください。
この時，リングからオリフィスプレートが外れないよう注意してください。外れますと流体漏れの原因になります。(図６)

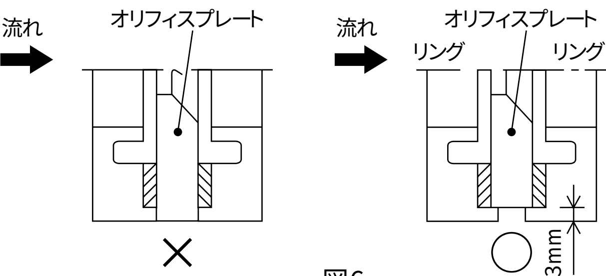


図6

ボルトを全て取り付け均一な面圧になるように締め付けてください。

(2) 垂直配管

リングからオリフィスプレートが外れていないことを確認し，取り付けを行ってください。

(3) 注意事項

（a）据付けの際は配管の中心軸と，絞り機構の中心軸とが一致するように設置してください。

（b）絞り機構を配管の途中に据付ける際にガスケット(お客様自身でご用意ください)が，管路内にはみ出さないよう注意してください。
はみ出しますと，測定誤差の原因になります。

3.3 ボルトの増締め

絞り機構の据付けが終了したら，片締めにならないように注意しながら，ボルトの増締めを行ってください。

4. その他

（a）絞り機構と差圧計を接続する差圧導管の敷設要領は，差圧計の取扱説明書を参照してください。

（b）絞り機構と差圧導管を接続する際，圧力取出し管にかぶせてある保護キャップ(図１－①)を外してください。

D.P. Device-FVA
D ______ mm. Ring ______
d ______ mm. Plate ______
Ser. No.______ T Mfd.______
Tag. No.______ TU ______
Fuji Electric Co.,Ltd. Japan

図5 銘　　板